一般社団法人 全国高圧ガス溶材組合連合会会報

全溶連

平成27年10月　第174号　www.zenyoren.com/

●安全で　社会に貢献　全溶連
●安全の　確かな周知で　保安の確保

十和田湖の神秘的な紅葉
写真提供：一般社団法人秋田県観光連盟

平成27年度　理事会・評議員会合同会議 …… 2
委員会報告 …… 8
単位組合紹介 …… 9
賛助会員の広場 …… 10
全溶連・福祉共済制度のご案内 …… 11
写真コンテストのご案内 …… 12

平成27年度
理事会並びに評議員会 合同会議開催

平成27年度理事会並びに評議員会合同会議が平成27年9月3日（木）メルパルク東京で開催されました。来賓として経済産業省商務流通保安グループ高圧ガス保安室の遠藤秀雄室長補佐、高圧ガス保安協会の安田理事をお迎えし、理事・監事・評議員の43名が出席し、また、年金基金、保険会社5社、報道関係4社及び組合オブザーバーとして神奈川・東海・大阪の事務局長が出席されました。

定刻、事務局より本会議が成立している旨報告し、次いで来賓の経済産業省商務流通グループ高圧ガス保安室の遠藤室長補佐、高圧ガス保安協会の安田理事のお二人が紹介されました。

開会にあたり藤井副会長より「本日の会議は6月の総会で改選された新体制での理事会・評議員会ということで、たくさんの議事を協議することになるが円滑な審議、進行に協力をお願いしたい。」と挨拶されました。

引き続いて深尾会長より

「今年の夏は、日本列島が高気圧に覆われ東京では8日連続の猛暑日となるなど、観測史上最長の記録を更新し、各地で多数の熱中症患者が緊急搬送される事態が相次ぎました。しかし暦の上では立秋も過ぎ、ここに来て気温も下がり大分過ごしやすくなりました。

深尾　会長

さて、世界の経済は、中国経済の先行き疑念と世界同時株安の流れもあり景気の先行きに警戒感が広がっている。

また、我が国の経済は、最近の原油価格の下落等で恩恵が大きく、企業収益の持ち直しを背景に景気回復感が出て来ると予想される。一方、高圧ガスを扱う業界にとっては、電力料金の値上げ、消費税率の引き上げなど、全溶連を取り巻く景況はまだまだ厳しく先行き不透明感をぬぐいきれない状況にある。

全溶連では組織の拡充強化、会員増強は重要課題であるが、会員数は、年々減少傾向にあり、昨年度は統廃合等により5社減り1,436社となった。全溶連としては引き続き未加入社の加入勧誘を行い、会員増強をいかに図っていくかが重要であると考えている。

さて、全溶連の活動の中心となるのは、7つの委員会活動であるが、経済、保安の2つの委員会が中核となり、各種保安文書類の新規作成や改訂に積極的に取り組んでいる。その活動の成果として、今年4月に「アセチレン容器取扱説明書」の

新規発行とそれを周知徹底するための事故事例を記載したチラシを作成して、発行から4ヵ月で6千部の利用があった。今年に入りアセチレンガスによる事故が多発しており、消費者に対する保安啓発実務として活用頂けるものと思う。

また､7年間使用していた「消費者保安講習テキスト」の全面改訂版が6月に発行された。全溶連では皆様からのご意見が大変重要なものと考えており、このような資料を作って欲しい等々のご意見を頂戴できればと思っている。

高圧ガスの事故関連では、後ほど保安室の遠藤様からもお話があろうかと思うが、特にアセチレンの漏洩、逆火及び作業環境の不備による事故が大半を占めており、これらの原因は人的要因による事故であり皆様には周知文書を通じ、あるいは消費者保安講習会を通じて消費先への保安啓発に、より一層ご尽力をお願いしたいと思っている。

最後に、本日の議事の無事進行と、本日ご出席の理事、評議員並びに関係者の皆様のより一層のご支援を心よりお願いしたい。」と挨拶されました。

引き続き来賓の紹介、ご挨拶を頂いた。

経済産業省商務流通保安グループ　高圧ガス保安室の遠藤室長補佐のご挨拶と講演内容は合わせて、6ページに掲載しております。

続いて高圧ガス保安協会安田理事のご挨拶

安田 理事

「平成23年3月に東日本大震災に見舞われてから4年半、平成16年10月の新潟県中越地震から11年が経過し、また平成7年1月の阪神淡路大震災から既に20年経過した。昨今の御嶽山や箱根山、桜島の噴火など日本は地震・津波・火山・台風と世界でも稀に見る自然災害の国である。反面これらの災害が日本人の類いまれな技術・感性を育ててきた。

貴連合会には今後もこれら震災をはじめとする自然災害による非常時においても、一般高圧ガス及び関連機器の流通から消費を通じて、安全且つ安心して使用して頂けるよう一層社会に貢献されることを期待しております。高圧ガス事故の平成以降の統計では当初毎年100件前後で推移したが、平成13年頃から増加の一途をたどり平成19年には200件を突破し、平成22年から平成24年の3年間は年間400件を超える事態になった。このうち移動・消費における事故は過去10年平均で3割を占めている。このような中、平成23年11月から10か月間という短期間に我が国を代表する大手化学会社において歴史的といえる爆発火災事故が3件も連続して発生したことで、社会の事故に対する目は一層厳しくなってきているという認識が必要である。関係者の努力により平成25年以降は400件を割り込み減少傾向に転じているが、一過性の減少にならないよう必要資源の投入、工夫した保安管理活動を通した人的設備面の改善の継続を御願いしたい。

貴連合会に於いては全体の3割を占める移動・消費における事故を削減するため引き続き会員の皆様を通じ消費者に対し高圧ガス及び関連機器の安全な取扱いなどの周知と各種保安活動にご尽力を願いたい。

高圧ガス容器特別回収月間が10月から始まるが貴連合会も長年にわたり関連団体と連携して放置容器処理事業を全国規模で展開され、放置容器の発生防止に大きな成果をあげている。この取り組みが高圧ガス関係業界においても大変有意義なものと高く評価されており、今後も関連団体と歩調を合わせて放置容器を発生させない活動を続けて頂きたい。」とご挨拶を頂きました。

引き続き、深尾会長を議長とし議案審議に入った。

第1号議案　平成27年度 役員構成（期中異動）の件

事務局より7月6日の理事会で承認された役員や7つの委員会体制及び、その後の期中異動について報告された。

1号議案は拍手で承認された。

第2号議案　常置委員会の平成27年度 活動方針について（7委員会）

各委員長より平成27年度の活動方針について

順次委員長より報告された。

総務委員会（牧野委員長）

総務委員会活動計画は総会・大会の計画および開催準備を基本に活動していく。

1.来年の総会準備

第73回総会は平成28年6月3日（金）にホテルメルパルク大阪で開催される。大阪組合会員の協力のもと進めていきたい。

2.第74回全溶連大会の計画準備

3.業界功労者、KHK会長表彰及び国家表彰等に関しては、各組合と連携の中全溶連表彰規程に基づいて候補者の選任、推薦を進めていく。

組織織委員会（大島委員長）

組織委員会活動計画は、従来通り組織の整備拡充と会員増強を基本に活動していく。

1.未加入事業者の実態について継続して調査していくとともに、単位組合加入で全溶連未加入のところに対し、引き続き加入促進を図っていく。

東北地域においては引き続き加入促進重点地域として加入促進を図っていく。

2.賛助会員については、皆様の更なるご支援を受けながら加入促進に向け取り組んでいく。

財務委員会（柳川副委員長）

財務委員会活動計画は、全溶連財政は大分健全化されてきたが、更なる財政健全化を目指していく。

1.平成27年度の収支見込の作成や収支決算書の作成、平成28年度の収支予算案の作成を中心に活動していく。

2.財政健全化の取り組み

収入と支出のバランスを的確に管理、把握し、全溶連財政の更なる健全化を目指したチェック機能を中心に活動していく。

経済委員会（佐藤委員長）

経済委員会活動計画としては、商慣行改善運動第2ステップとして保安契約の締結促進と販売店社員教育支援資料の提供を中心に活動していく。

1.商慣行改善運動第2ステップとして、容器による供給についての保安契約の推進の中で、容器指針の策定について推進していく。

2.「一般高圧ガス販売時マニュアル」の普及、活用を図る講習会を水平展開していく。

3.消費者保安点検サービスの有料化については保安委員会と連携を図りながら、具体的な取り組み方法を検討していきたい。

4.鳥インフルエンザへの対応については、行政との絡みもあり各地域の実態を調査し全国的な取り組みを検討していく。

保安委員会（鈴木委員長）

保安委員会活動計画としては自主保安活動の強化を中心とした活動をしていく。

1.自主保安活動の強化・推進

保安文書類の定期的見直しと、新規保安文書類の発行を中心に活動していく。資料についてはビジュアル化を推進していく。

2.放置容器の処理促進については、高圧ガス保安協会からの補助金をもとに今年度の予算枠を372万円とし、現在内容物不明容器6本、毒性ガス3本、アセチレン容器341本を予定している。

10月1日からはじまる「高圧ガス容器特別回収月間」を推進団体と共同で取組み、放置容器回収運動を進めていく。

3.賠償責任保険の加入促進については、本年7月の募集結果は加入会社数が510社で、前年度より5社増加した。期中の加入も可能なので、引き続き取り組んでいく。

厚生委員会（土田委員長）

厚生委員会活動計画としては、これまでと同様、団体定期保険、傷害補償、医療補償の加入促進を基本に活動していく。

1.団体定期保険加入「新キャンペーン」の取り組み

キャンペーン内容は9月18日（木）の厚生委員会で決定する予定。

実施時期：平成27年10月1日～平成29年3月31日

実施内容については加入促進につながる内容を委員会で決定していく。

2.傷害補償及び医療補償の加入促進

傷害補償は1,700名の目標、医療補償は150名の目標で取り組む。

広報委員会（髙橋委員長）

広報委員会活動計画としては会報誌の発行とホームページの拡充を基本に活動していく。

1.会報誌の発行を年4回（1月、4月、7月、10月）とし、内容の充実を図る。
　来年1月号の特集記事としての新春座談会は9月の委員会で決定となるので、選出された組合殿には快く受けて頂きたい。
2.第6回写真コンテストを開催する。
3.ホームページの拡充
　①全溶連会員名簿の定期更新
　②保安情報提供システムの拡充及び保安文書の資料編の掲載による利用を図る。

2号議案は拍手で承認された。

第3号議案　第72回全溶連大会（甲信越・新潟）収支承認の件

事務局より6月に開催された第72回大会時の収支を報告した。

1.大会収入の部：10,726千円
　大会参加費（宿泊・懇親会）、観光参加費、ゴルフ参加費、大会準備金、寄付金の他今回は新潟県観光コンベンション協会から補助金と助成金を頂いた合計額

2.大会支出の部：11,032千円
　大会資料等、大会会場費、宿泊費、懇親会費、観光・ゴルフ費用の合計金額

3.差引不足金：306千円は27年度予算の大会準備金1,000千円から充当する。

3号議案は拍手で承認された。

第4号議案　全溶連福祉共済制度の報告

事務局より福祉共済制度の状況について説明した。

⑴全溶連福祉共済制度の運用状況
　①団体定期保険の加入状況
　　平成27年7月1日現在加入事業所数382事業所、加入人員3,935人、加入口数9,183口となっている。
　②平成28年度募集スケジュール
　　募集開始日　　平成27年10月1日
　　募集締切日　　平成27年11月4日
　　効力発生日　　平成28年　1月1日
　③各種保険の増減状況（平成27年7月1日現在）
　　団体定期保険…平成27年1月比　加入人員＋4名、加入口数±0口
　　傷害補償…平成27年1月比　加入人員＋48名、加入口数＋187口
　　医療補償…平成27年1月比　加入事業所±0社、加入人員＋2名

⑵全溶連賠償責任保険制度について
　27年7月度の募集結果について
　加入者数：510社（26年7月比＋5社）
　　加入率50.1%（目標50%）
　保険料　：52,524千円(26年7月比＋3,342千円)

今後の課題他
　①加入率目標を55%とする。
　②重点取組単位組合（加入率20～30%以下組合）：8組合の加入増を図る。

4号議案は拍手で承認された。

第5号議案　その他の報告

その他報告事項を事務局より報告した。

1.全溶連会員状況について（平成17年から平成27年の会員数の推移）
2.高圧ガス保安協会年会費按分について（平成27年度分）
　今年度は従来の固定費＋変動費按分方式で算出した金額で請求する。
3.平成27年度理事会、委員会等年間行事日程について（行事一覧の通り）
4.全溶連保安文書頒布状況報告
　周知文書（27年版）249千部、今後は「アセチレン容器取扱説明書」と「保安講習会テキスト」の頒布に取り組む。
5.平成27年度全国一斉容器特別回収運動について（従来通り取り組む）
6.放置容器処理事業（特別枠）の実施状況（予備費がある

ので追加受付可）
　平成27年度の処理申請状況等を資料に基づき報告した。
7.最近の事故記事紹介（5例）
8.消費税転嫁対策特別措置法の失効期限延長に伴う対応について

5号議案は拍手で承認された。

以上ですべての議事が終了し、最後に山内副会長より、「まだまだ厳しい経済環境の中、我々は保安を優先して高圧ガスの事故防止に取り組んでいく」という挨拶で閉会となった。

最近の高圧ガス保安行政の動向

経済産業省　商務流通保安グループ　高圧ガス保安室
室長補佐　遠藤秀雄

「この会議出席は3回目となる。最近高圧ガスの事故が多いと感じられる。全溶連では各地での事故に関してネットワークを使い、再発防止に取り組んでいることや、講習会・展示会の開催、講演活動を積極的に行っており、また今回「高圧ガス消費者保安講習会テキスト」も立派な物が出来上がったと思う。全溶連では保安活動の他に団体共済や賠償責任保険、関係団体である高圧ガス溶材卸厚生年金基金制度など高圧ガス販売業者が健全に経営をされていく上で重要な体制を整備しており、全溶連のこれらの活動に敬意を表したい。

6月の大会に出席した矢島室長が溶接女子という言葉を耳にしたとのこと。今までプロの人が使っていた溶接機械や切断器など今は容易にホームセンターやインターネットで手に入り、仕事帰りの女子が溶接や金属加工をするなど身近な使われ方をするようになったということで“素人のプロ化”現象が起きている。反面熟練された方々が卒業されて、業務の危険性を肌で感じている人が減り、ケアレスミスのようなことが発生するなど“プロの素人化”となり今年の事故が起きていると感じられる。

保安活動の中で周知義務が販売店に課せられているが、どういう人が使っているかを念頭に置きながらユーザーさんの保安教育をして頂きたい。10月に始まる「高圧ガス保安活動促進週間」もありこの活動も利用しながら全溶連の活動を進めて頂きたい。

これからオリンピックに向けた工事が活発になる中で、皆様の活躍する場もたくさん出てくると思うが、事故の無いよう進めて頂きたい。」と挨拶の後「高圧ガス保安行政の動向について」講演されました。

遠藤室長補佐の報告内容
「高圧ガス保安行政の動向について」

1.高圧ガス事故の発生状況について

1-1.平成26年度の事故件数

事故件数は746件（対前年▲89件）、人身事故は28件（対前年▲6件）、死亡は0名とあるが大阪の事故が加わり1名となった。

1-2.事故件数の推移

平成23年の東日本大震災による事故件数を除くと最近は高いところで横ばいとなっているが、製造事業所における事故が突出して増えている。製造事業所においては冷凍関係、一般関係が多くなっている。

現象別では漏洩が一番多く火災に至るものもある。人身事故及び死傷者については平成15年のように密閉された状態でのフ

ロン漏洩で39名が負傷したことにより突出して跳ね上がったこともある。

1-3.事故の原因

事故統計については平成22年に見直しされたのでそれ以前と、23年以降ということで分けている。平成23年～ 26年の累計でみると設備の維持管理不良による腐食管理不良や検査管理不良が多い。また、ヒューマンファクター的なものとして誤操作・誤判断による件数が多い。

1-4.平成26年度の重大事故B級以上の事故

①北海道での蟹茹で上げ作業中のCO中毒事故：軽傷7名（液化石油ガス）…「誤操作・誤判断」。

②福岡での冷媒漏洩：軽傷17名（フルオロカーボン22）…「腐食管理不良」。

③群馬での小屋解体中の埋設ボンベ損傷によるガス噴出事故：軽傷10名（塩素ガス）…「腐食管理不良」。

④千葉でのオートガススタンド解放検査準備中の爆発事故：重傷3名、軽傷2名（液化石油ガス）…貯槽水張り中の事故で原因調査中。

2.最近の水素スタンドにおける事故状況について

水素スタンドは今まで実証用であったが今年から商業用としてオープンしてきた。新しく商業用としてオープンにあたり、早速漏れたという事故があった。

水素スタンドの事故の経緯

平成14年から事故推移があるが、今までの事故は実証用スタンドにおける事故件数である。CNGスタンドの普及数と事故件数の相関があるがこうならないように取り組んでいく。

水素スタンドの事故防止として、漏えい事象と車輌の誤発進及び運転ミスへの対応が重要と考えている。

平成25年は5件、平成26年は4件の水素スタンドの事故が紹介され、中でも栃木で起きた蓄圧器からの漏れは設置後1週間で発生したものである。100Mpaのガスを入れる容器で肉厚は6cm位あるが鉄の焼き割れ部を水素が突抜けたということであった。容器の加工が甘かったことに起因する。また愛知県ではホース内面の亀裂が繰り返しの使用で貫通したという事例も発生した。

水素トレーラーの火災事故について

平成26年10月に発生した水素トレーラーの火災事故は、タイヤのバーストから火災が発生し、複合容器の溶栓が作動しガスがすべて放出されたが容器破裂は回避された等報告された。

3.高圧ガス小委員会の実施状況

産業保安規制のスマート化に向けた検討の方向性について

①自主保安の高度化を促す規制へ

②新技術・新市場の出現・普及に円滑に対応する規制へ

③規制に係るコストの最適化

運用の統一化を図るため、関係自治体との連絡会や諸規定についての運用マニュアルを作り説明会も実施する予定である。

④スマート化に向けた規制対象の再整理

⑤高圧ガス事故の事故分類の見直し

等々取り組んでいく。

4.平成27年の全溶連関連（溶接・溶断）事故等

1月～ 8月までの事故31件が報告された。

秋田県のアセチレンガス漏洩・爆発事故は死傷者が出たが、全溶連では「溶解アセチレン容器取扱説明書」の発行準備していたため、速やかに作成し関係業界への啓発を実施してもらったことは、有意義なことと思う。

以上の講演がされました。

（全溶連保安委員の方からのコメント紹介）

兵庫県では溶接・溶断用での事故は我々の努力不足を否めないと思っている。消費先でのガスに関連する事故の予防には高圧ガス事故報告に頼るのではなく、県産業保安とも協議をして県下8会場で消費者保安講習会に労働局の方の講師を盛り込み幅広い職場保安・産業保安という観点での呼びかけを行うことにしました。

以上

委員会報告 (27年9月)

●広報委員会

日　時　平成27年9月11日(金)12:00～15:00
場　所　メルパルク東京　華厳の間
出席者　深尾会長、河西理事、髙橋委員長他６名、事務局２名、産報出版

髙橋委員長を新委員長とする広報委員会が開催された。

議　題

⑴平成27年度活動方針について

会報誌の発行（年４回）、ホームページの拡充を基本に活動していく。

⑵会報誌発行スケジュール及び記載内容について確認した。

特集記事：新春座談会開催予定先として協議の結果、第１候補：岡山組合、第２候補：新潟・長野・山梨連合にお願いすることになった。

単位組合紹介記事は10月号は秋田、１月号は山形、４月号は福島、７月号は茨城の順に掲載していくことで決定した。第６回目写真コンテストの募集記事を10月号に掲載する。４コマ漫画については引き続き作者にお願いし継続していく。

⑶全溶連ホームページの拡充について

新たな提案がないので現状のままとするが、引き続き改定に向け取り組む。

※議事録の発送については、メール送信とする。メールアドレスの無い人には従来通りとする。

後列左から 神田代理、市田委員、河西理事、林委員、佃委員、関口事務局長　前列左から 深尾会長、髙橋委員長、小澤委員

●厚生委員会

日　時　平成27年9月18日(金)12:00～15:00
場　所　メルパルク東京　華厳の間
出席者　深尾会長、土田委員長他6名、事務局2名、保険会社３名

議　題

⑴平成27年度活動方針について

⑵全溶連・福祉共済制度の運用状況について

	平成27年1月		
	加入事業所数	加入人員	加入口数
団体定期保険	379社	3,931名	9,183口
傷害補償	114社	1,638名	3,125口
医療補償	26社	140名	

	平成27年8月		
	加入事業所数	加入人員	加入口数
団体定期保険	381社	3,931名	9,174口
傷害補償	123社	1,716名	3,341口
医療補償	26社	145名	

団体定期保険の27年８月の状況は１月と比較すると事業所数は２社増え加入人数では増減なし、加入口数は▲９口と減少している。

⑶平成28年１月更新時の募集について

団体定期保険掛金について

掛金は従来通り620円/口（保険料470円、制度運営費150円の予定）とし募集要領の説明がされた。

⑷新キャンペーンの取り組みについて

①名称「ポイントゲットキャンペーン」（ポイント制）

②期間…平成27年10月1日～平成29年3月31日

③取組…①加入人数増・加入口数増につき各１ポイント加点

②新規加入事業所増加の場合①のポイントの５倍

③組合別加入事業所率をそのままポイント加点とする

④福祉共済アンケートを実施し、回収１枚に対し0.5ポイント加点

⑤表彰はポイント上位組合を第74回全溶連大会で表彰する。

なお、アンケート用紙は会報誌に封入し配布する。

以上の内容で「ポイントゲットキャンペーン」を実施することになった。

後列左から 嶋野委員、大嶋委員、野村委員、三浦委員、峰委員、関口事務局長　前列左から 佐波副委員長、土田委員長、深尾会長、山下委員

単位組合紹介

秋田県高圧ガス協会

〒010-0951　秋田市山王 3-1-7　東カン秋田ビル 7F
（一社）秋田県 LP ガス協会内
TEL 018-862-4469　　FAX 018-862-4918
Eメール　k-funaki@akitalpg.or.jp
会長　相場 栄利
正会員：22 事業所（内　全溶連会員 7 社）

相場 会長

当会は昭和 45 年秋田県高圧ガス懇話会として発足して、秋田県内の高圧ガスの販売店を中心に組織を作り保安活動をしてまいりました。高圧ガスの多様化に伴い保安の充実を図るため、懇話会を発展的に解散して昭和 52 年 1 月 26 日に現在の秋田県高圧ガス協会を設立いたしました。この会の目的は高圧ガス保安法の精神に則り公共の安全確保に寄与するとともに、会員が協力して業界の秩序を維持し教養の錬磨に努め、もって業界の社会的地位の向上と共存共栄を図ることとなっております。

当会の重点活動項目としては、

1)防災訓練による防災技術向上と事故防止
2)高圧ガス保安講習会による防災意識高揚
3)高圧ガス取扱い事業所の自主保安

以上のようになっております。

活動内容は、毎年「防災の日」に合わせて開催されている秋田県総合防災訓練に参加しております。今年は 8 月 9 日仙北市で実施され、防災フェアーには地区の販売店さんも参加してもらっております。昨年、秋田県と JIMGA 秋田県支部との間で「災害時医療ガス供給協定」を締結しましたので、それに基づき緊急医療ガス物資搬送車での医療ガス酸素ボンベの供給と、秋田県 LP 協会のご支援で LP ガスを燃料とする発電機の実演をしました。停電となった時の在宅酸素発生装置の電源確保として、発電機を使い電源接続の応急措置をし、災害時には助け合いながら的確に対応できるよう訓練しました。

保安講習会は毎年 10 月の「高圧ガス保安活動推進週間」に合わせて実施しております。

講師は秋田県関係部署の総合防災課と資源エネルギー産業課様に依頼して、「県内の高圧ガス事故について」講演をいただいております。今回はさらに全溶連及び JIMGA のご協力により専属の講師を派遣して頂き、実際に使うガスを題材にして、リスクと事故の可能性から販売店が取るべき保安の確保について講習会を開催します。事故情報の発信により原因究明等から再発防止に努めたいと思います。

災害は「時無し場所なし予告なし」で発生するものと言われております。こうした災害の前には私たちは無力でありますが、普段からの知識と技術の習得や訓練等を怠ることなく積み重ねることが保安意識の向上に繋がり、事故の未然の防止や被害を最小限に食い止めるために大切であると思います。

賛助会員の広場

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿1-28-1　http://www.aioinissaydowa.co.jp/

『確かな品質と豊富なバリエーション。
日鉄住金機工は、確かな技術で
お客様のご要望にお応えします。』

日鉄住金機工株式会社
〒660-0891
尼崎市扶桑町1番1号
www.nsskikoh.nssmc.com
鋼製高圧ガス容器、圧力容器
鋼製溶接式管継手類、
鋼板製溶接式管継手類、
配管部品、溶接構造物の
開発、製造及び販売

全溶連・福祉共済制度のご案内

全溶連では３種類の福祉共済制度があります。
現在会員事業所にはパンフレットを送付しています。

1

団体定期保険

〈事業所加入型〉

加入しやすい掛金で
万一に備える保障

年齢に関係なく掛金は同じです。

2

（オプション）

傷害補償

〈団体総合生活補償保険〉

経営者・従業員のみなさまの
業務中のケガを補償

業務中以外も補償する24時間タイプもあります。

3

（オプション）

医療補償

〈団体総合生活補償保険〉

病気やケガに備えた充実補償

問い合せは所属組合の事務局へお願いします。
ご案内パンフレット・申込書は全溶連ホームページにも掲載しております。

第６回写真コンテストのご案内

会報誌全溶連の表紙を飾る第６回写真コンテストの
開催にあたり皆様からの写真を募集致します。
奮ってのご応募をお待ちしております。

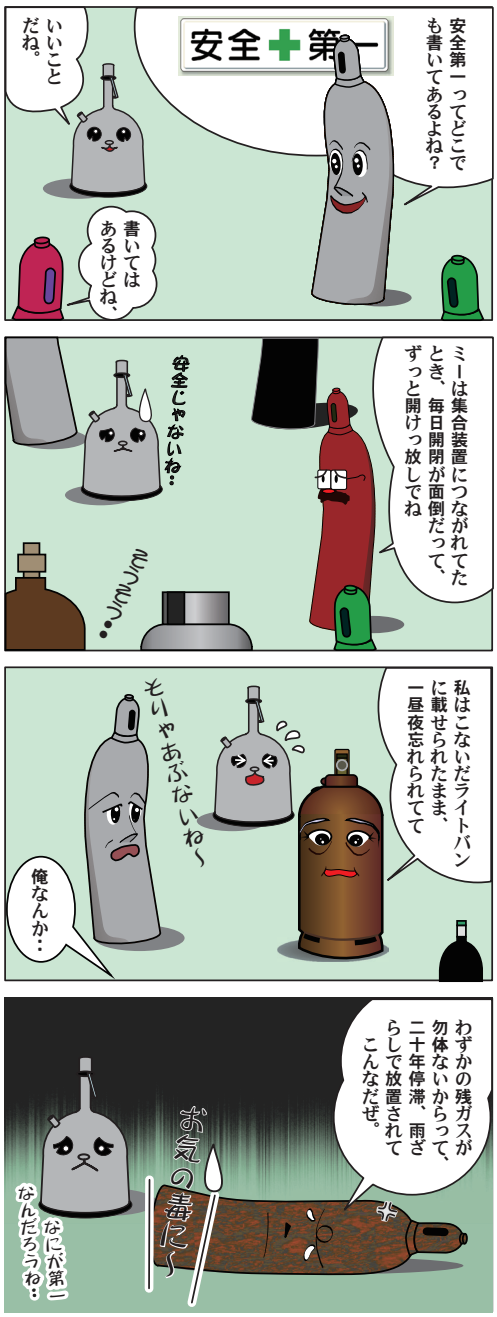
応募要領

応募作品	テーマは自由で季節を問わず人物、風景、名所、旧跡等の写真で一人３点まで応募できます。 但し、他のコンテスト未応募作品に限ります。
応募資格	全溶連会員及び会員の従業員及びご家族の方
写真サイズ	カラー、プリントの場合は2Lサイズ以上 電子データの場合は500万画素以上
表彰	優秀賞　１名　商品券　２万円 佳作　若干名　商品券　５千円 参加賞　入賞者以外の応募者全員の方に記念品を贈呈致します。 ※優秀作品は会報誌の表紙に掲載させて頂きます。
選考	全溶連広報委員会にて選考
締め切り	平成27年11月30日（月）必着
送り先	〒101-0036 東京都千代田区神田北乗物町12大竹ビル 一般社団法人　全国高圧ガス溶材組合連合会 E-mail: honbu@zenyoren.com 及びhonbu2@zenyoren.com
作品の返却	返却希望のある場合を除いて原則、返却致しません。

ぼくはボン兵衛くん

原作：封漏（ふうか）　作画：びくさん

第十四話「安全第一」の巻



全溶連ホームページ 会員専用ページへの 新規メンバー登録方法

インターネットを開きアドレスバーに
http://www.zenyoren.com/pwmgr/index.html
を入力。

新規登録メンバー画面が開きますので必要事項を入力し送信します。ご自身のメールに「ログインID・パスワード」が通知されますので、再度全溶連ホームページの会員専用ページへアクセスし、必要事項を入力して下さい。また、会員登録の方法は、全溶連ホームページの会員専用ページの見本を参照して下さい。登録すると定款・規程・会員名簿・役員名簿・委員会名簿・議事録が見られます。

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C001712

UD FONT
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

GOLD+
環境保護印刷
この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com

発行所
一般社団法人 全国高圧ガス溶材組合連合会
東京都千代田区神田北乗物町12（大竹ビル）
Tel. 03-5296-0430　Fax. 03-5296-0435
http://www.zenyoren.com/
e-mail:honbu@zenyoren.com